

(18) 「く大伴里五戸大伴マ依麻呂米五斗」 170×24×4 032

(1)は上端及び左右両辺は削り、下端は折損している。習書木簡と考えられる。

(2)は糸巻具で、四周が削られている。(3)は四周が削り、中間部右半が一部欠損している。「白マ(部)郷」は、『和名抄』の駿河国有度郡真壁郷か。宝亀元年(七七〇)光仁天皇の即位に伴い、白部(白壁)は真壁に改称されたと考えられるため、「白マ(部)郷」の表記は、それ以前のものである可能性が高い。

(5)は四周が削り、左下は欠損している。下端は二次的削りの可能性がある。(6)は上下両端が折損し、左右両辺は削り。裏面二行四文字目は「伊」の可能性はある。(15)は墨痕が認められるが、文字か絵か不詳である。

(17)は四周が削られ、右辺中程が切断されている。墨痕があるが文字か否か不詳である。

(18)は付札で、四周が削り、右下は欠損する。国郡里制もしくは郷里制下の木簡で、天平十二年(七四〇)以前のものであると考えられる。

『和名抄』駿河国には大伴郷は存在しない。

木簡の釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料研究室の方々のご教示を得た。

(天石夏実)

## 『青森県史』資料編古代2 出土文字資料』の刊行

本書は、文献史料を集成した『県史』資料編古代1と『県史叢書』古代1補遺の二冊に次ぐ古代北方史に関する三冊めの資料集である。青森県をはじめ現在の北海道・東北地方・新潟県で出土した三万点を超える文字資料を収録する空前絶後の規模を誇る。

第I部青森県出土文字資料、第II部墨書・刻書土器、文字瓦は遺跡ごとの資料表を主体とし、道県ごとの解説と主要な資料の図版からなる。第III部は木簡と漆紙文書で、遺跡ごとに資料を排列し、それぞれに形状・内容等を注記する。第IV部は金石文で、年紀にしたがって資料を排列し、多くの写真を掲載する。お問い合わせはこちらまで

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ

電話 〇一七―七三四―九二三九

お求めはこちらまで

青森県図書教育用品株式会社

電話 〇一七―二二七―八八一

A4判 八一六頁 頒価五九八五円(税込、送料四二〇円)